

JWF ファンド 2022で完了したプロジェクト概要

Mikindani村における給水環境整備 (ケニア)

- (1) 実施団体: Star Awake CBO (#059)
- (2) 実施地: Mikindani village in Nangwe location, Kenya
- (3) 費用: 2,100ドル (JWFファンド1,500ドル、受益者500ドル、実施団体100ドル)
- (4) 受益者数: 2,250人
- (5) 実施地の水問題:
 - ① 対象地域唯一の診療所は、COVID-19の規制により安全な水が確保できないとして封鎖。
 - ② 地域住民用の生活用水は、野外水源に依存しており、この水も汚染がひどく、疾病に罹患しやすい環境。
 - ③ 安全な水を得ようとする、遠くのパイプラインから高額な水を得るしかなく(0.25USD/20L)、経済的にも非常に厳しい状況にあった。



安全ではない水源から水を汲む住民



閉鎖された診療所

(6) プロジェクトの主な活動:

関係者との協議、1.5キロの水道管整備とキオスク(水配給所)の建設(水道公社からの水供給)、女性15人から成る水利用委員会の設立、女性たちを対象とした研修実施。

- (7) 持続可能な活動: 訓練を受けた15人の女性たちは、持続可能で長期的な利益を確保するため、1日3人の女性で組織されたチームを編成、日替わりで作業スケジュールを組み、設置されたパイプ式給水システムの運営や修理・保守、建設されたキオスクの管理を実施、水を販売し、システムの修理・メンテナンス費用を賄う。

JWF ファンド 2022のフォローアップ調査結果

Mikindani村における給水環境整備(ケニア)

【現状】

- JWFファンド2022により設置・建設された1.5キロメートルの安全な水のパイプ式給水システムは、スター・アウェイクCBOの計画通りに機能しており、年間を通じて2,250人の受益者に安全な水を提供している。唯一の損害は、時々、発生する蛇口の軽微な不具合や詰まりだが、施設の管理者は2025年2月末までに蛇口の修理・交換を行う予定である。
- 受益者は、施設を適切に使用しており、施設をめぐる紛争や対立などの問題に直面したこともない。
- 施設は、450人の貧困層の女性とその代表15人から構成される水利用者委員会により運営されている。水利用者委員会の管理下で、プロジェクト実施中にパイプ式給水システムの使用、修理/メンテナンス、運用、および水処理オプションについて研修も施された。
- 施設を良好に機能させるために、管理者たちは3人1組で交代制の勤務シフトを組み、施設の運用と修理・メンテナンスを担当し、施設の持続可能性と長期的な利益を確保している。彼らは、ミキンダニ村の450世帯に対して、20リットル容器1個あたり25セントで安全な水を販売し、販売記録を付け、NZOWASCO社に利用料を支払い、設置されたシステムの修理・維持費を賄い、設置されたシステムの修理・維持費を賄い水販売による利益の75%を自分たちの賃金として分け取り、利益の25%を水道管の拡張のために貯蓄している。

【変化】

- 受益者は現在、汚染された水を飲む前に適切に浄化できるように、水の安全性と、煮沸、塩素消毒、日光殺菌などの良好な衛生習慣を遵守しており、また、定期的に水容器を洗浄し、安全に水を扱って保管している。
- これらの衛生習慣の実践において、受益者の中から新たなリーダーも生まれた。
- 受益者の水系感染症の発生率は、65%減少したため、水の収集や水媒介性疾患の治療に費やしていた時間、労力、費用を節約でき、貧困を終わらせるための農業等の活動に参加できるようになった。

【その他】

- ミキンダニ村の各世帯に20リットル入り容器1個あたり25セントで安全な水を販売することで、毎月の修理とメンテナンス代を差し引いても、毎月、US\$1,475程度の利益が得られているため、金銭的にもサステナブルな仕組みで運営している。



完成したキオスク



WASH研修を受講する受益者

JWF ファンド 2022のフォローアップ調査結果

Mikindani村における給水環境整備(ケニア)

現場からの声 (抜粋)



Dominic Wekesaさん、(45歳、町長)

プロジェクト終了後、地域住民は水源の安全性を確保しています。例えば、汚染された表流水は沸騰、塩素消毒、日光殺菌などを行い、飲用前に浄化するなど、衛生対策を徹底しています。また、水の容器は定期的に洗浄し、安全に水を取り扱い、保管しています。結果、地域住民の間で水が媒介する病気が減り、ミキンダニ村/コミュニティでは安全な水のキオスクが設置/建設されてから水が媒介する病気が発生していません。

また、水汲みや水媒介性疾患の治療に費やしていた時間、労力、費用を節約できたことで、地域社会の住民はより健康になり、農業や収入創出活動に参加できるようになりました。それにより、地域社会の貧困が削減されました。彼らは今では、苦勞して稼いだ収入の5%未満を水や水媒介性疾患の治療薬の購入に費やしており、これは35%から減少した数字です。



Rose Munialoさん、(33歳、施設管理委員会委員長)

委員会のメンバーは、1日3人ずつのグループに分かれて作業し、当番の3人がその日のすべての役割を担います。ミキンダニ村の世帯に20リットル入り容器1個あたり0.025米ドルで安全な水を販売することで、施設の運営と維持に必要な財源を確保しました。

また、キオスクの利用者の一人から、プロジェクト完了後、安全な水が簡単に手に入るようになったため、今では個人や家庭での衛生管理をより真剣に考えるようになり、手洗いの回数が増え、家の中を清潔に保つようになりました、というポジティブなフィードバックも来ています。



Hellen Simiyuさん、(24歳、施設利用者)

私は、普段から施設を利用していますが、下痢や腹痛の症状が減ったので、気分が良いです。また、WASHトレーニングで学んだことを実践する意味で、私は常に、自宅に設置されたキオスクから安全な水を使用するようにしています。表流水を使うときは、飲用前に必ず浄化するようにしています。

プロジェクト終了後、私自身や家族の生活に良い変化がありました。プロジェクトは、安全な水へのアクセスが増えたことで、家庭内の衛生状態を良好に保つことが可能になり、不衛生な環境や汚染された水の摂取による家庭レベルでの生命を脅かす水媒介性疾患を克服することができました。そのため、より健康的な生活、そして水汲みや水媒介性疾患の治療に費やす時間、労力、資金の節約により、私と家族は農業や収入を生み出す活動に投資することができるようになりました。